

「がん患者に対するメンタルケア ～サイコオンコロジストからみた OT」

＜広島大学付属病院、緩和ケアチームの小早川誠先生＞

サイコオンコロジーからの視点でメンタルケアについてわかりやすく時には気さくに講義をして下さいました。がんにはさまざまないたみや苦痛があり、それをチームでどのように支援していくか、リハビリの役割や写真をまじえての事例紹介がありました。事例紹介では広島大学付属病院でのチームの活動をお話して下さい、チームとリハビリ科がどのように連携をとっているか、またチーム内にリハビリ Dr もおられ、驚きました。小早川先生はがん患者のうつ病・適応障害の治療として1、身体のだらみの緩和2、カウンセリング、3、薬物療法4、リハビリ療法を話して下さいました。特に、『リハビリ療法』は小早川先生が命名して下さい、①世間話・愚痴聞き付きマッサージ療法（話好きの方は楽しみの時間となる）②イベント療法（院内の行事ごとの写真などを部屋にかざると病棟看護師さんとの話題も増加）③歩行訓練式覚醒療法（日中の活動性を向上させ、気力を底上げする）は効果的であるとのことでした。私たちが日頃、臨床でしていることを言語化して下さい、非常に勉強になると共に、臨床で自分たちがしていることの意味、重要性を再確認することができました。

その後、グループワークにて自己紹介や活動紹介、今後自分がチームの中でどのように動いていきたいかなどを検討しました。グループでは実際、緩和ケアチーム内で活動されている方、今後チームを立ち上げる予定の方、訪問リハビリで終末期に携わっている話とみなさんの様々な活動のお話を聞くことができました。みなさんの緩和ケアへの思いを実際に聞くことができ、「全国にはこんなに仲間がいるんだ！明日からも頑張ろう！！」と、みなさんから勇気と活力を頂きました。大変有意義な時間を過ごすことができました。（紀和病院 寄山泰志）

「緩和ケアでバーンアウトしないためのメンタルケア」

～ケアカウンセリングの立場からみた作業療法士～

＜臨床心理士 藤土 圭三先生＞

緩和ケア領域では、トータル・ペインの考え方がありますが、OT はいずれからもアプローチができるという強みがあると改めて感じました。

藤土先生の講義のなかで、「一緒に船に乗って、ぎりぎりのところで岸に移る」という言葉が私には印象的でした。患者様やご家族との関わりのなかで、寄り添いながらも「岸に移る」見極めが難しいと感じることが時折あります。やはり状態が悪くなるにつれ、出来ていたことが出来なくなり、その状態を受けとめる方もいらっしゃれば、日々、自身の状況に対し、不安や葛藤を抱えながら過ごす方もいらっしゃいます。患者様の想いを汲み取りながら関わるなかで、何を望まれているのか、それに近づくにはどのように介入すれば良いのか、「一緒に船に乗って、ぎりぎりのところで岸に移る」を頭におきながら、患者様と関わりながらも自分自身のメンタルケアも必要であることを実感できました。

（前原病院 赤木麻衣子）